



TAMA魂 多摩学!!

～目次～

- 1 多摩学研究目的
- 2 多摩学で研究をしたテーマの一部紹介
民話・千人同心・八王子織物
- 3 多摩圏についての総論

多摩学研究目的

私達の多摩学の目的

多摩のローカリティ(特徴・特質・個性)を深く研究することで、グローバルとのつながりが見え、又「多摩圏とは何か?」という事を明らかにすることを目的とし論文を作成した。

研究対象

水防の課題
市民農園
民話
千人同心
八王子織物

多摩圏とは何か?

民話に見る多摩のライフスタイル

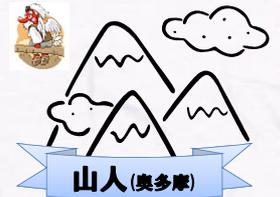


研究方法

西多摩・南多摩中心に民話(約100話)を調べ、複数の視点から分類し傾向を抽出!!



里人(稲城)



山人(奥多摩)

民話から見る多摩圏

山地・平地による生活圏の認識の差と、職による差があり、環境に対応した動きがある
生活環境が人々の行動や心情に影響した。

八王子千人同心とロシアのつながり



研究方法

蝦夷に行く前と、言った後の八王子千人同心の変化を調べた。



蝦夷地

千人同心から見る多摩圏

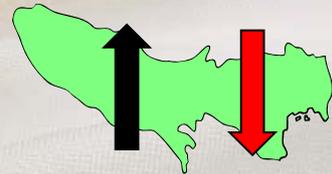
蝦夷地から八王子に帰還した後に八王子や相模の国の地理書を編纂した。
ロシアの接近をきっかけに地理意識の変化がうまれた。

八王子織物の形成と衰退



研究内容

八王子織物産業が形成と衰退した経緯を追う。



八王子織物から見る多摩圏

八王子は開国に伴い織物流通が飛躍的に成長したが、現在の衰退につながるのもアメリカとの日米繊維協定によるものが大きい。

多摩圏の地域的特徴と外部要因の関係性

5つの視点	地域的特徴	外部要因
第1章 多摩川	多摩川の水害の特徴として、治水技術の向上で水害の発生頻度は低くなったが水害意識は低下している。	鶴見川河川は都市化が進んで治水、都市水害のリスクが高し、また、台風やハリバチなどの水害に備える取り組みも活発で、鶴見川流域にすむ人々の水害意識は高し。
第2章 民話	里人と山人では、自然の災害や病気についての認識や考え方が異なり、それぞれが抱えている世界の観念が違ってくる。	近代の人々の視点
第3章 市民農園	食料を育てている人 自然を愛する人 自然と関わりを求めている人	自然が少ない地域 都会の人々
第4章 千人同心	八王子城は3層の堀 仕事有休・習習	歴史文化 石垣・堀 地理環境 変化
第5章 絹・織物	伝統的八王子織物 絹織物	産業変化 観光地の開発の進み 交通手段 日本経済の発展 ライフスタイルの変化

多摩圏についての総論

1、多摩地域は多様な地域の特徴があり、何れにしても外部要因が深く関係している。



多摩地域を一つで表す事は極めて困難で、この多様性があるという事が多摩地域の特徴であると言える。この特徴がある多摩地域を検証するのであれば豊かな視点から研究をしていく必要がある。



多摩川における水防の課題

～歴史的観点から～
多摩学 高遠恵治

研究目的

・多摩川の水防の課題を、歴史的観点から見ることで明らかにし、多摩の特徴を発見する。

研究内容

・多摩川は暴れ川で、今まで水害の被害が大きい。私は、水害の歴史を調べることで、水防の重要性や課題を考察した。

結論

・多摩川流域の水防意識が低いことが分かった。
→治水技術の進歩や新住民の増加など

目次	
第1節	多摩川の現状と水害の歴史
第1項	多摩川とは
第2項	江戸期の多摩川水害
第3項	明治期の多摩川水害
第4項	大正期、昭和期の多摩川水害
第2節	水防の現状と課題
第1項	水防の種類
第2項	水防の知恵
第3項	多摩川と鶴見川の比較
第4項	水防の課題
～インタビューからみえてくるもの～	
第3節	まとめ

環境における市民農園の可能性

～奥多摩のケース～
石川健太

研究目的

現代の市民農園の実体を探る

研究内容

奥多摩町にある「おくたま海沢ふれあい農園」という市民農園を調べた。

結果(仮)

市民農園における、農地所有者と農園利用者の土地貸借関係から地域活性化等の社会貢献活動へ発展していく

目次	
第1節	各時代における市民農園の役割
第1項	ドイツの市民農園の歴史
第2項	日本の市民農園の歴史
第2節	市民農園の新しい役割
第3節	まとめ

民話に見る多摩の生活意識

山田真里帆

研究目的

多摩の人々の生活の様子や気質を民話から探る

研究内容

西多摩・南多摩中心に民話(約100話)を調べ、複数の視点から分類し傾向を抽出

結論

山地・平地による生活圏の認識の差と、職による差があり、環境に対応した動きがある

生活環境が人々の行動や心情に影響
ライフスタイル・気質は多様である

目次	
第1節	多摩の口承文芸
第2節	民話の類型化
第3節	結論
第4節	考察
第1項	生活圏と神・動物の関係
第2項	課題の質と環境の関係
第3項	生活環境と死の概念の関係
第5節	まとめ

八王子織物産業の 形成と衰退

高橋 豪

- 研究目的
「絹を題材に多摩圏(特に八王子)における物の流れと現在における絹の付加価値創造・多摩圏のグローバル化について調べ、多摩圏について探る」

• 研究内容

1. 文献調査
2. 郷土資料館へフィールドワーク
3. 現在多摩の絹を扱う多摩シルクライフ21

• 結果

絹自体は平安時代より前から日本にはあるが、多摩圏の絹は、横浜開港時にグローバル化が急速に進み、輸出の花形となった。その結果、絹は多摩圏内に莫大な富を築いた。

その後、戦後から現在にかけて、絹はナイロンの進出により衰退を見せた。が、グローバル化に対応する新しい形の呉服屋も出てきている。

目次	
第1節	養蚕業と絹織物業
第2節	養蚕をなぜ八王子で行ったか
第3節	八王子と絹物の歴史
第1項	古代～江戸時代前期の八王子と絹物
第2項	江戸後半期の八王子と絹物
第3項	明治時代の八王子と絹物(開港編)
第4項	明治時代の八王子絹物(浜街道・鎌水商人編)
第5項	明治時代の八王子絹物
第6項	大正・昭和戦前期の八王子織物産業
第7項	戦後の八王子織物
第8項	現在の絹織物(不況と闘う多摩シルクライフ21研究会)
第3章	まとめ

研究目的

蝦夷地開拓にみる
八王子千人同心の組織文化

- ・千人同心の蝦夷地開拓から多摩圏特有の組織文化を理解する

三谷明史

研究内容

- ・移住前の千人同心の組織と蝦夷地移住後の組織を比較し共通の部分を抜き出す → 多摩の特性

結論(仮)

- ・八王子では3段階式組織
↓ 蝦夷地では
5段階式の組織編成となっている
千人同心は違う土地にも対応する知恵を持っていた

目次	
第1節	千人同心の組織
第1項	千人同心とは
第2項	組織構造・構成員
第2節	日光・江戸での千人同心
第1項	日光勤番
第2項	江戸勤番
第3節	蝦夷地に行くことになった経緯
第1項	築込のロシア南下政策
第2項	旅立った千人同心たち
第4節	蝦夷地での千人同心
第1項	蝦夷地移住とは
第2項	第1回職務内容・成果
第3項	第2回職務内容・成果
第5節	組織の比較
第1項	蝦夷地開拓前と開拓時の組織構造の差異
第6節	まとめ
第1項	考察
第2項	推論としての組織文化の示唆